「日々の理科」（第 1084 号） 2017（H29),-6,25

「ぐるっと茗荷谷・街たんけん（１）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

３年生の社会では、街の様子を学習する。東京 23 区全域が学区の本校では、少々とりかかりにくい学習である。私は現在３年担任なので、当然社会の授業も担当している。私は子どもの頃から地図が好きで、小学校でもらった地図帳など、あまりにも何度もめくり過ぎて、ついには全部のページが分解してしまったほどである。今でも地図が好きで、国内外の地図のコレクションは相当な枚数である。

私は「理科の教師」らしく、学校周辺の地形に着目させたいと思った。お茶の水女子大学付近の地形は複雑である。大学は武蔵野台地の東端にあたる「舌状台地」の縁に位置し、すぐ西側には浸食谷の一つ「音羽低地（神田川の枝谷）」がある。

大学近傍で、最も複雑な地形を呈するのが「茗荷谷」である。これも神田川の支流がつくった古い浸食谷の一つで、地名の通り、まさしく「谷」を形成している。

通常の地形図では、構造物の記号や表記が邪魔をして、谷の地形はまったく判読できない。しかし、上図のような色別標高図を作図すると、文字通り地形が「浮き彫り」になって見えてくる。この図は国土地理院のデータから私が作成してものである。

良く見ると、茗荷谷駅付近の谷は１本ではなく、何本かの枝谷に分かれていることがわかる。今回、３年生の子どもたち（学年全員）と、この茗荷谷の地形を実際に歩いてみることにした。

学校から徒歩圏内とは言え、３年生を 100 人以上、安全に誘導するのは、大イベントである。茗荷谷駅界隈は住宅が密集し、大部分の道は細い。自動車の交通量こそ少ないが、歩道のない道も多い。下検には念を入れ、自転車や徒歩で何度も現地を見て歩いた。

その結果、地形を実感しつつ、安全に歩けるルートを設定できた。上のような写真入りの地図を作り、子どもたちに配布、前日に説明しておいた。（２ページ目に拡大画像あり）計算では一周 2.4km。メモをとりながらゆっくり歩いても１時間強で行けそうだった。